

練習問題略解

細部は各自で検証すること。

1. (1)  $A = \begin{pmatrix} 1 & 0 & -1 \\ 0 & 1 & 0 \\ 1 & 1 & 0 \end{pmatrix}$  のとき,  ${}^tAA$  を求めよ.

(2) 一般に  $n$  次正方行列  $A$  について  ${}^tAA$  は対称行列であることを示せ.

解. (1)  $\begin{pmatrix} 2 & 1 & -1 \\ 1 & 2 & 0 \\ -1 & 0 & 1 \end{pmatrix}$

(2)  ${}^t({}^tAA) = {}^tA({}^tA) = {}^tAA$ .

ゆえに  ${}^tAA$  は対称行列.

2.  $n \geq 2$  とする. 命題「 $n$  次元ベクトル  $\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{c}$  のうちの 2 つのベクトルの組も 1 次独立ならば 3 つのベクトル  $\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{c}$  の組は 1 次独立である」の真偽を理由をつけて答えよ.

解. 偽である. 反例  $\mathbf{a} = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \\ \vdots \\ 0 \end{pmatrix}, \mathbf{b} = \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 0 \\ \vdots \\ 0 \end{pmatrix}, \mathbf{c} = \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 0 \\ \vdots \\ 0 \end{pmatrix}$

はどの 2 つも 1 次独立だが,  $\mathbf{a} + \mathbf{b} - \mathbf{c} = \mathbf{0}$  であるので  $\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{c}$  の組は 1 次独立でない.

3.  $\begin{vmatrix} 1 & \dots & 1 & 1 \\ \vdots & \ddots & 2 & 1 \\ 1 & \ddots & \ddots & \vdots \\ n & 1 & \dots & 1 \end{vmatrix}$  を計算せよ.

解. 与式を  $I_n$  とおく. 第 2~第  $n$  行から第 1 列を引くと

$$I_n = \begin{vmatrix} 1 & \dots & 1 & 1 \\ \vdots & \ddots & 1 & 0 \\ 0 & \ddots & \ddots & \vdots \\ n-1 & 0 & \dots & 0 \end{vmatrix}$$

(解 a) 最終列を隣の列と次々に  $n-1$  回入れかえて第 1 列にもってくる. 次に最終列を同様に  $n-2$  回入れかえて第 2 列にもってくる. 以下同様の操作をつづけ, 最後に最終列を 1 回入れかえて第  $n-1$  列にもってくる. 入れかえの回数は全部で  $(n-1) + \dots + 2 + 1 = \frac{n(n-1)}{2}$  となるので

$$I_n = (-1)^{\frac{n(n-1)}{2}} \begin{vmatrix} 1 & 0 & \dots & 0 \\ 0 & 1 & \ddots & \vdots \\ \vdots & \ddots & \ddots & 0 \\ 0 & \dots & 0 & n-1 \end{vmatrix} =$$

$$(-1)^{\frac{n(n-1)}{2}} (n-1)!$$

(解 b) 第 1 列と第  $n$  列を入れかえる. 次に第 2 列と第  $n-1$  列を入れかえる. 以下同様にして入れかえると  $n$  が偶数のときは  $\frac{n}{2}$  回の入れかえで,  $n$  が奇数のときは  $\frac{n-1}{2}$  回の入れかえで対角行列にできる.

従って,  $n$  が偶数のときは  $I = (-1)^{\frac{n}{2}} (n-1)!$ .

$n$  が奇数のときは  $I = (-1)^{\frac{n-1}{2}} (n-1)!$  となる.

(解 c) 第  $n$  行で展開すると  $I_n = (-1)^{n+1} I_{n-1}$ ,  $I_1 = 1$  となる. 故に  $I_n = (-1)^{(n+1)+\dots+3} (n-1)! = (-1)^{\frac{(n-1)(n+4)}{2}} (n-1)!$ .

注) 解 a, 解 b, 解 c は表示は異なるが同じものである. その他の解の表示もあり得る.

4.  $\mathbf{a} = \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}, \mathbf{b} = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}, \mathbf{c} = \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}$  とおく. ( $\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{c}$  は原点を始点とする位置ベクトルと考える.)

(1) 外積  $\mathbf{a} \times \mathbf{b}$  を計算せよ.

(2)  $\mathbf{a}, \mathbf{b}$  で作られる三角形の面積  $S$  を求めよ.

(3)  $\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{c}$  を辺としてできる 4 面体の体積  $V$  を求めよ.

解. (1)  $\mathbf{a} \times \mathbf{b} = \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \\ -1 \end{pmatrix}$

(2)  $S = \|\mathbf{a} \times \mathbf{b}\|/2 = \sqrt{3}/2$ .

(3)  $V = |(\mathbf{a} \times \mathbf{b}, \mathbf{c})|/6 = 1/3$ .

5.  $A = \begin{pmatrix} 1 & 1 & 1 \\ 1 & -1 & -3 \\ 2 & 0 & -2 \end{pmatrix}, \mathbf{b} = \begin{pmatrix} a \\ b \\ c \end{pmatrix}$  とする.

(1)  $A$  のランクを求めよ.

(2)  $A\mathbf{x} = \mathbf{b}$  が解をもつための  $a, b, c$  の条件を求めよ.

解. 拡大係数行列  $(A|\mathbf{b})$  を行基本変形で階段行列に変形すると

$$\begin{array}{ccc|c} 1 & 1 & 1 & a \\ 0 & 2 & 4 & a-b \\ 0 & 0 & 0 & c-a-b \end{array} \quad \text{となる.}$$

(1) 故に  $\text{rank } A = 2$ .

(2)  $\text{rank}(A|\mathbf{b}) = \text{rank } A = 2$  が必要十分条件になるので,  $a + b - c = 0$ .